

# 平成の天皇と皇后 —30年の歩み—

47

21年~30年

「**残留孤児**」。まず連想するのは、終戦時に中國大陸で親と生き別れた日本人の子どもたちだ。しかし日本の戦争による「**残留**」という名の悲劇は中国だけでは起きたわけではない。

フィリピン、ベトナムで日本人と現地女性との間に生まれた日系2世は筆舌に尽くせぬ苦難を味わってきたり。戦後の日本人の視野に彼らは入っておらず、「歴史の孤児」ともいえる。

## 見捨てられた同胞に光



残留日系2世らに声をかける天皇・皇后両陛下(2016年、フィリピン・マニラ)

天皇、皇后両陛下は20光が当たった。  
16(平成28)年にフィリピンには戦前、多くの日本人移民があり、太平洋戦争直前には約3万人トナムで、残留日系人といわれる人々と面会。彼ら見捨てられた同胞に初めて開戦。日本軍はフィリピンに上っていた。41年12月にだ。

一方、ベトナムでは終戦後は差別と貧困に苦しんでも、残留日系人らは、日本軍に協力した日系人はフイリピン人の恨みを受け、太平洋戦争直前にいた。父は戦いと言つてもらつた。父は戦いとねぎらわれた。時に亡くなつたが、父親に会えたような気持ち」と涙ぐんだ。

## 残留日系人が得た「誇り」

NPO法人「フィリピン日本系2世を支援している

人ひとりに声をかけ、手を握った。84歳の女性は「天皇陛下に『大変でしたね』と笑んでいました。健

本軍に協力した日系人はフイリピンには戦前、多くの日本人移民があり、太平洋戦争直前には約3万人トナムで、残留日系人といわれる人々と面会。彼ら見捨てられた同胞に初めて開戦。日本軍はフィリピンに上っていた。41年12月にだ。一方、ベトナムでは終戦後は差別と貧困に苦しんでも、残留日系人らは、日本軍に協力した日系人はフイリピン人の恨みを受け、太平洋戦争直前にいた。父は戦いと言つてもらつた。父は戦いとねぎらわれた。時に亡くなつたが、父親に会えたような気持ち」と涙ぐんだ。

多くは「ご苦労された日々のこととは新聞で読みました。健

を占領し、後も帰国せず、フランスから独立戦争を戦つたベトナム独立同盟会(ベトミン)として軍人として軍人として軍隊に参加した残留日本兵が用された。いた。彼らはベトナムへ女性と結婚し、2世が生まれた。54年、フランスとの戦争が終結し、残留日本兵はレイテ島上陸でフィリピン戦が始まり、100万人以上が家族の同行は認められなかつた。残された母子はなかった。残された母子はやはり貧困を強いられた。やはり貧困を強いられた。グエン・ティ・サン(当時93歳、18年1月28日、マニラの死)は「夫が日本に帰り、が、あの『誇り』といふ言葉で清算されたのではない

元日本兵の妻らと対面し、うしく思つています」と語る。猪俣さんは「妻民である

16年1月28日、マニラの死(当時93歳、18年1月28日、マニラの死)は「夫が日本に帰り、が、あの『誇り』といふ言葉で清算されたのではない

た。日本人86人が日の丸の小旗を持つた。日本人86人が日の丸の小旗を持つた。1人で子ども4人を育てました。とても大変でした」と話している。

思い出を述べた。皇后さま

(編集委員 井上亮)